

「枢機卿」

ジエームズ・シャーリー 著
千 葉 孝 夫 訳

三幕一場

ヴァリーリア、及び、セリンダ、登場。

ヴァリ 私はね、セリンダ、アルヴァレス伯爵を、公爵夫人に

推薦した時、事態がこんな具合に成り行くだろう、などと

考えてはいなかったのですわ。奥様は、コラムボ様のことを、今や、

如何な風に思っておいでですか？ あの方が、ご自分の恋人を

振り捨ててしまうなんて、宮廷中の人々をびつくり仰天させてしま

いましたし、私も、

未だに、驚きのあまり、呆然自失している始末ですからね。

セリン あの方に

魔法がかけられたのでなければ、

とても不思議なことですわね。だけど、恋には、宿命が宿っている

のです。

5

それでも、私は、矢張りあの方が好きですわ。

貴族二名、登場。

貴族一 さあ、今や、婚儀と祝典(28)の他には何もないな。

ヴァリ 一体如何な遊びが新たに近づいたからとて、閣下、貴方は

そんなに浮かれておいでですか？

貴族一 一束の書状が宮廷へと届き、

それを読まれた国王様は、陽気になられたのだが、それは、我々の

全てに関わりのあることだったのですな。

コラムボ殿が、大々的に、華々しくも、敵軍を

打破られ、もう既に、本国へと

凱旋なさる準備を整えておられる、とのことですよ。

セリン あの方は、この私が、お祈りをして差上げたから、それだけ

首尾よくいかれたのですわ。

貴族二 貴女は、今迄、大いに彼を讚美しておいででしたな、奥様。

15

10

貴族一 国王様が、彼に会いたがつておられますぞ。
 ヴアレ この知らせを聞かれたなら、枢機卿は、有頂天になられま
 しょう。

枢機卿、登場。

貴族一 あの方がお出でになりましたぞ。

不満げなご様子ですが、(公爵夫人の)ダルヴァレス伯爵との
 結婚には、苦い味わいがあるものの、

あの方の味覚が、徐々に利かなくなつてきている、という訳ではあ
 りませんな、ですが、あの方は此処に残して、参りましょう。

貴婦達 私達は、公爵夫人の許へ参りましょう。(ヴァリーリア、セ
 リンダ、及び、貴族達、退場。枢機卿は残る)

枢機卿 我が甥は、本国で、負けを味わつたようには、アラゴン軍相
 手に、

戦勝を博してはいないのだ。して、偉い公爵夫人の
 運命(財産)に近づくことによつて、我が一門に、より大きな栄光

を付け加えるべく、
 私がせつせと計画を練り上げたことをば、

彼が等閑にしたこと故、彼の勝利には、冷水が浴びせられ、
 この私を猛り狂わせるのだ。

ヘルナンドー、登場。

ヘルナ

枢機卿 兎下。

枢機卿 あんたは、あんたの將軍のことで、国王様に告訴されました
 な。

30

ヘルナ あれは、告訴ではありませんぞ、兎下。手前は、唯、国王様
 のご質問の

幾つかに、お答えしていた迄ですからな。

枢機卿

甥は、成功しているのだよ、

真面目一方で、武事兵法にも精通した、あんたの

個人的剛勇、乃至は、助言勧告がわざわざなくともね、

ヘルナ

兎下、

手前は、別に、あの方の幸運が羨しい、と思つてゐる訳ではありませんぞ。

枢機卿

それは、あんたの

敵意を超越しているし、あんたの悪口中傷も、別に、彼が腹を立て
 る程のことではないのだ、

それは、「(犬が)月に向つて吠える」⁽²⁹⁾という訳だからな。

ヘルナ

もつと自制

なさる方が、
 貴方のその衣裳にはお似合いですがな。

枢機卿 この軍人は、多少共、腹立ちの素振りを見せるだろうな。

私は、あんたのような虫けら(雀蜂)の大群を、世界中に
 ばら撒くことが出来るのだぞ、さあ、あんたが陣営に残してきた毒

針を、捜しに行かれるがよい。⁽³⁰⁾

国王、及び、貴族達 登場。

ヘルナ

国王様が お出でになつたな。この件は、何時の日か、申し開

きすることも出来よう。(退場)

国王

事情という事情が、悉く、巧く運びましてな、兎下、貴方は幸

40

35

せになられ、
甥御さんの栄光を――

枢機卿

貴方の大義名分の正しきの所為だったのです、

我が甥に勝利を博させてくれたのはね。もしもコラムボが、公爵夫

45

人の為に、あれ程一生懸命に闘ったのだとしたら、

彼は、彼女を征服出来ただろうし、それから、結婚という

国王

貴方には、神意天佑と和解して頂かなければなりません、猊

下。

貴方が、公爵夫人と口論なさっている旨、

私は伺いましたが、貴方がたには、仲直りして頂きたいものですな。

枢機卿

手前は、別に、腹を立てている訳ではありませんぞ。

国王

は、この私の為に、

それで

50

貴方にも、悦んで頂いて、私共々、婚儀に榮譽をお与え頂きたいも

のですな。

聖職者は、慈悲仁愛を見せ、真つ先にお手本を示して。

目立たなければいけませんな、何しろ、彼女は女なのですからな。

枢機卿

貴方は、ありとあらゆる事柄に関して、命令をお下しになる

が宜しい。陛下、貴方は、

私が、貴方への敬愛という点で、ぐらついている、とて、手前を咎

めだてなさる訳にはいきませんぞ、もしも、手前の甥が、

貴方ご自身と、私の選出とを、心変わりもせずに応援することに、大

なる幸せを覚えていてくれたらなあ、と

依然私が願っている、としましたらね。ですが、いくら頭脳を振り

絞っても、

如何してこんなことが起るのか、私には分かりませんな。我が甥は

心からの愛情で彼女を愛していた、と私は承知していますからな。

60

ヘルナンドー、登場。

国王

甥御が戻つて来たなら、さぞかし貴方のことを讃め称えてくれ

るでしょうな。

(ヘルナンドーに向つて) 大佐、あんたからの書状は、読まずとも

済むことになりそうだな、將軍は、

戦闘を終えて、帰還して来るところだからな。

ヘルナ

それを伺つて、嬉しく思いますぞ。

(国王、退場)

枢機卿 猊下！

(傍白) 誰か憤慨している人が、あんたの喉笛を掻つ切つて

やりたくて堪らぬ、⁽³¹⁾と思うとしても、ありえぬことではないな。

65

枢機卿

あんたから、私に命令を下して頂きたいものですな、高潔な

大佐殿。

あんたが、婚礼にご出席下さらぬことは、まさかあるまい、と私に

は分つていますからな。

ヘルナ

結婚なさるのは、コラムボ様ではありませんぞ。

枢機卿

矛槍や、マスクेट銃の扱い(構え)方を、指導に行かれる

がよい。

それから、あんたの忠実な部下⁽³²⁾達を、溝に跳び込ませる訓練もする

のだ。

其処で、汚辱に塗れて死に、悪臭を放つがよい。そうすれば、婚礼

の席上で、

この私が、分別ある振舞いをするもの、とあんたにも分るだろう。

ご存じのように、国王様が私をお待ちかねだからな。

ヘルナ

(傍白) 悪魔でもそうするだろうな。⁽³³⁾誰か自暴自棄になつた

55

70

輩が、
あなたの（死出の）旅路で、あなたに手を貸してくれよう。（一同、75
退場）

三幕二場

アントニオ、及び（ベドロとジェイクイズを含む）従僕達、
登場。

アント（衣裳を差出しながら）ほら、これを、そう、これが、あんなの役割にピッタリだな。あなたは、この切込みのある（傷のついた）やつを着ればいい、何しろ、あなたは兵士なのだから。ほら、これが、青色の衣裳を着ている（のが通例の）、唾の従僕用の衣裳だぞ。

従僕一 この胸着は、どう見ても、私には似合わぬだろうな、畜生め！ このズボンも、王侯が穿いても、似合うでしょうか？ ペドロは、貴族の役ばかり演じていて、その衣裳の縫い目に、もう二本余計にレースを付けているのです。

アント あなたは、ベドロが馬鹿な貴族なのだ、と考えなくちゃいかんよ。奴さんは、気に入りの如何なレース（モール）でも衣裳に付けるだろうからな。

従僕二 私の顎髻は、この服にピッタリと似合っていますか、皆さん？

アント あなたの顎髻など、糞喰らえ、だ。

従僕三 それ（pox＝梅毒）は、罹った者をぎよつと脅かして、髪を

10

抜けさせるでしような。

従僕一 この男は、黙り役を演じているだけで、彼は、厄介極まる男だが、ペラ／＼と喋りまくりもするのです。

従僕三 秘書の旦那は、ジェイクイズに兵士役を演じさせてもよかつたでしょうに、彼はもう既に黒い眼帯を付けていますからな。

従僕二 失礼ですが、秘書の旦那、一体誰が、我々の為に、この劇を書いたのか？ と私は訊れましたぞ。

アント 「我々の為に」だと？ おや、あなたは、青い衣裳を着込んだ、唾の従僕より（少しでも）ましな人間なのかな？

従僕二 して、誓って、それは、何もかも貴方ご自身の作品だと思っ
ている、と私は言いましたぞ。

アント あつちへ行くがいい、この馬鹿者め！
ジェイ 彼は、喜劇を書く以上の知恵を持ち合わせてはいない、と貴方
はお考えですか？ うちの奥様の礼拝堂付牧師が、その芝居を

作つたのです、尤も、彼は、その仕事の所為で味わう名譽目と、
手間面倒からして、それに出演して、己が姿を観客に見られるだけで、満足してはいますがね。

ロジェロ、登場。

ロジェ 誰か私の仮面を見つけた人がありますかな、皆さん？ それは、つい今し方迄此処にあったのですが、それを被って、私の役割を演ずるのに必要な仮面が、如何しても見つかりそうもありませんからな。

アント あなたの仮面が無くなってしまったのか？ あなたの役割が、その中に入っていないか？ 幸いな。ほら、ほら、辺りを見廻してみるがいい、ジェイクイズがそれを持ってはいないかな？

20

15

25

ジエイ 私が、彼の仮面を、ですか？ 私の肩の上に、それが載つかる（くっ付く）筈はありますまい。

アント 急ぐがいい、諸君、国王様がもう夕食を済ませられたかどうか、私が見てこよう。各自、自分の衣裳と役割には、気を付けるがいいぞ。（アントニオ、ロジェロと共に、退場）

従僕二 彼は行ってしまいましたかな？ 私の考えでは、仮面劇の方が、婚礼にはもつと相応しかった、でしょうな。

ジエイ おや、黙り屋さん？（婚礼では）仮面劇をやるだけの時間はなかったし、道具立てが厄介だからね。

従僕二 舞台の上方で、ざっと釘付けにした十枚の厚板、それが一体何だろう？ 天人（神々）が通げる時に載る馬車が降りてきて、彼等は踊り出すのです。小道具全体には、今迄四十倍の金が支払われていて、宮廷の所蔵になっているのだが、秘書殿は、自分の賢明さをひけらかす為には、芝居をしなければならぬのですからな。

ジエイ それは教会付牧師のものだ、と私があんたに言わなかったかな？ 口を噤んでいるがいいのだ、黙り屋さん。

従僕一 我々の間だけではな。して、銀色の胴衣のこの布地が、又ぞろ、色が剥げ（抜け）落ちなければいいのだがな、もしも私が知らない所で、何かあんたに分らぬようなプロット（企み、筋立て）が行われているとしたらね。

従僕二 あんたは、（芝居の）プロット（筋立て）のことを話しているが、世界中で最高の詩人が書いた、芝居のプロットと引換えにでも、これはやらんぞ、もしもそのプロットの芝居を鮮やかにやつてのけるのでなかつたらね。

ジエイ 巧いことを言つたな、黙り屋さん。

従僕三 は、は、は。ペドロは、自分の胴衣を着込んでこの方、ほんの三行台詞を繰返しただけで、しかも、五ヶも釦を壊してしまつた

のだよ。

従僕二 それは知らないが、この付け髻にかけて、ところで、此処には、訳の分つた律義者を、縛り首にしてやれるだけの毛が生えているのだがな、もしもそう言つてよければ、この喜劇全体の中で、力強い一行の台詞も聞いた憶えがないな、寝室係の女中が、船長に口づけする件を除いてはね。

従僕三 素晴らしい黙り役だな。

ロジェロ、登場。

ロジェ 人々はもう粗方夕食を済ませましたが、私は、未だに自分の仮面が見つかつてはいないのです。

ジエイ あんたの地顔で演じればいい。

ロジェ そう言つてくれて、有難う。すると、私はそれを小道具にすることが出来るな。もしも私が、自分の仮面を見つけられなかったなら、秘書の旦那に、仮面を付けずに、私の役割を演じて貰えばいいのだ。

アントニオ、登場。

アント すっかり準備は出来たかな、諸君？ 国王様が、回廊（バルコニー）を通つて、お出でになるところだ。女性達は、もう衣裳を着けているかな？

従僕一 ロジェロは、仮面を紛失してしまつたのです。

アント ほら、忌々しい奴め、私を受取るがいい。あんたが役者だつてか？ 生意気な奴め！ 音楽の用意はいいかな？

王室式部官、登場。

王式部 諸君、我が奥様は、「自分が諸君を呼びにやる迄、待つて欲しい」と仰有つて居るのだ。勇ましい衣裳（軍服）を纏つた騎兵の一隊が、つい先程下馬したばかりで、この婚礼に敬意を表すべく、自分達の余興を献呈したい、と申し出てくれたのだ。して、彼等の催しが終了する迄、諸君が静肅を保つて居るように、というのが、公爵夫人のご命令なのだ。

従僕一 諸君！

従僕二 残念だな！

ロジエ 秘書の旦那、貴方の仮面が、又出てきましたぞ。人間は、所詮人間に過ぎないのですからな。私は、使節の役割を演ずる為、五行の台詞を憶え込もう、と眠らずに頑張つたし、それから、宮廷の役人の台詞もね。それなのに、こんな事態に立ち到つたのか？

アント 我慢するがいい、諸君、そんなに、かつかと熱くなりなさんな。それは延期されただけだし、芝居は、暫く待たされた後でなら、当然冷えきつて居るだろうからな。

ジェイ もしもそれが上演されなかつたなら、あの礼拝堂付き牧師は、この上ない損失を蒙ることになるだろう、つまり、彼は、理知を喪う（気が狂う）ことになるのだからな。（奥から、オーボエの音色、響いてくる）

アント あの楽の音は、国王様が、ご入場になるところだぞ、と告げ知らせて居るのだ。退るのだ、引退つて、ぶつ／＼零すのは止すがいい。（一同、退場）

国王、枢機卿、アルヴァレス、公爵夫人、セリンダ、ヴァリーリア、プラセンティア、貴族達、ヘルナンドー、登場。彼等

が着席すると、コラムボ、登場。更に、豪華な衣裳を纏つて、仮面を被つた者五名も登場。二名宛組になつた彼等の間には、松明持ちが一名宛立つて居る。彼等は舞い踊り、その後、アルヴァレスと話し合いたがつて居る状態で、彼を手招きする。

アルヴ この私と話し合いたい、というのか！（彼等、抱擁し合つて、囁き交わす）

国王 あの仮面劇の役者達をご存じかな、あんた？

公爵夫 わ、陛下。 私は存じません

枢機卿 （傍白）（あんたのご存じなのが）一人はいまするがな、外征中

の我が甥っ子でなければ（を除いて）ね、彼は、彼等が婚礼を挙げた夜に、あんな風に（安っぽく）ジグ踊りを踊つて見せたりはせぬ、硬骨漢なのだぞ。どうも、あれは、

彼なのかも知れんな。
公爵夫 ダルヴァレス卿は何処に居て居るのか？

国王 花婿を呼び入れるがいい。

コラムボ、登場。仮面劇役者四名、彼等の衣裳の一つを着けた、死んだアルヴァレス伯爵を運び込み、彼の遺体を横たえると、退場。

公爵夫 これは、何という不思議なことでしょう？
枢機卿 未だ花婿の姿が見

えませんな。

国王 アルヴァレス伯は何処かな？（コラムボ、遺体を指さし、彼等が遺体の仮面を脱がすと、アルヴァレスが血を流しているのが分る。）

公爵夫 なさったのかわ。 おお、これは、伯爵様だ、殺され

国王 一体何者が、敢てこんな恐ろしい蛮行に及んだのか？

コラム （仮面を脱ぎながら）手前です

ぞ、陛下。

国王 ほう、コラムボか？

コラム はい、あの行為の正当なることを証明すべ

く、敢て

この場に踏み留まっているコラムボですぞ。

ヘルナ

残忍極まるものだな。

公爵夫 おお、こよなく愛しいあの方を！

国王 予の護衛兵達は、奴等を残らず逮捕するがよい！

護衛兵達、登場。

私の裡なる、

この光景は、

男らしい資質を悉く揺すぶり、目覚めさせるものなのだ。可哀想な

アルヴァレス、

今日この日は、あなたの婚礼の当日ではないのか？

公爵夫 別の世（この世）での、こんな凶悪な犯罪を処罰してくれる

ような、

神（天帝）、乃至は、刑罰がある、と、もしも貴方が考えていらつしや

100

るとすれば、

この大きな殺人に相応しくなりそうで、他人への見せしめにもなるような正義をば、速やかに行つて下さい。

さもなくば、貴方は、私達の誓約を駄目にしておしまいになるでしょうし、もしも、此処で、

こんな純真無垢な人が、傷ついて、血を流していなければならぬというのに、貴方が唯手を拱ねて、傍観しているだけだとしたなら、

貴方がたを地上の神々と呼んでいる、可哀想な人々は、貴方がたが定めた法に

従うことを惧れる、いいえ、悪魔になってやろう、と努めるでしょうよ、

もしもこんな極悪罪が犯され続けているとしたなら、聖徒達は、

天上にいても、安全無事ではなくなるだろう、と怖がるものです

からね。

国王 あんたに、

あんたには、正当公正な取扱いをさせてあげよう。

枢機卿（傍白）さあ、（コラムボが）解放されて自由の身となるのは、

素晴らしいことだな。

従僕一名、登場。

従僕 仮面劇の役者達は逃亡しましたが、彼等の馬は、彼等を載せよ

うと、

用意おさおさ怠りなく、門口で待構えていて、其処で、

さつさと彼等は乗馬したのであります。あれ程友人味方めかして

105

110

やつて来たこととて、

誰も、狼狽した彼等の逃走をば、疑うことは出来ませなんだ、何しろ、それは、巧みに夜陰に乗じての仕業故、

確と実行されたものでございますな。

コラム 私、その全てに申し開きしてやろう。それは、多くの者の命を、

たつぷりと危険に晒すことになるが、もしもあの短剣が

血塗れになつていた、としたなら、彼等は皆、私の行為の傍観者に

しか過ぎなかつたのだ、と

それは確証してくれることだろうに。して、もしも貴方が、今や、

ご自分の判断力に（自身に働く）許可をお与えになるとすれば、こ

の光景を始めて

目の当たりにしたばかりでは、流石冷静な氣質をお持ちの貴方も、

ぎよつとなさつたことでしょうか、

手前は、あの行為の弁解をして、それを正義の仕業と呼べますぞ、

つまり、国王の任にあり、至上の名譽面目を享受する貴方が、それ

に基いて、

法を樹立すべき行為とね、他の者達が、（お手本として）

それを模倣出来るようにね。私は、唯、情けある措置として、

彼の生命を奪い、彼女に罰を下したただけなのです、何しろ、あの二

人が

共謀して、私の名声の精髓をば、悉く抹殺してしまおうとしたので

すからな、

これをお読み下さい。——（公爵夫人の書状を国王に渡す）して、女

には、

それを実行するだけの力、乃至は、悪意があるのだ、と

悪魔が心得ていた程、甚だしく私の名譽を損なわせるような趣旨を

130

115

其処に読み取つて下さい。如何に貴方が欺かれ、

貴方の権力が、公然と侮辱され、私の（彼女への）の信頼や、彼女の微笑みが、

私を陥れ、彼女への私の愛情を口実と（偽装）して、捲き毛にした

そのお気に入りをつまみさせるような、

人を煙に巻く魔法として使われたものか、をも

この手紙から読み取つて頂きたいのであります。

枢機卿

公爵夫人が、

それ程迄にも猫を被つて、あんたや、我々全員に対する

貞節淑徳の譽れを喪うなんてことがありうるものかな？

しかし、私は、彼女を憐れんでやらねばならぬ。我が甥は、今迄、

余りにも酷烈過ぎたな、尤も、これ程の公然たる侮辱を受ければ、

死にかけて者をも、神への祈りから呼び戻し、彼を猛虎へと変える

ことだろう、

何しろ、世の中には、我々の名声を凌ぐ貴重な物は何も無いからな。

それをば、たとえ、その血筋には、名譽面目という要素が

一滴たりと混ざつてはおらぬ、並の人間が、苦勞して維持しよう、

と

努めたにもせよ、兵士は、いとまきつちりと、名譽榮光に

縛りつけられていることとて、ありとあらゆる他の人々にもまし

て、

擁護しなければならぬのだな。しかし、それは、あれ程

残忍残酷でなくともよかつたことだろうに。

ヘルナ

（傍白）慈悲深い悪魔め！

国王（読む）「どうか、貴方、貴方のお手元にある、私（へ）の愛、

又は、私自身という点で、私が当然受くべき物として、貴方が敢て

要求しようとなさつている物をば、放棄して下さいませ。すれば、

150

135

その行為は、貴方が立派な方である、と私の心に訴えかけてくるでしょうし、貴方が、そんな風に克己というものを実践なさったなら、何度でも、立て続けに勝利を獲得なされるでしょうし、その後で、貴方は、ご自分の名声を損われることなく、喪われたこのローソーラを再び訪れることがお出来になりましょう。」
この書状に対するあなたの返事は、「無条件で放棄する」というものだったのかな？

155

コラム 彼女が口にした誓約を大いに信用し、又、私が彼女を打捨てていた、ということに心惑わされて、(彼女と別れられる、という

呑気な私の気持を嘆き悲しみ、非難しているようにも思われた彼女が、これ程あつざりと背信、

160

又は、変節の罪を犯せる筈はなく、むしろ、これは、私に手早く軍事を片付けさせる

方策、という心算で行なったことなのだ、という点も考え合わせ(て) 私は

あの書類を送ったのですが、それをば、彼女は、正義感ならぬ、意地悪さからして、

165

私が試みる心算で行なったことを、自分の婚約の破棄と受取ったの私、彼女を心から愛していたので、敢て天を証人に立てられますが、

(天と公爵夫人のうちの)何方を最高に愛していたものか、自分でも分らぬ程でしたな。一方、彼女は、

私が、否応なく、死を以て、血腥いその罪の償いをさせてやったその男とぐるになつて、永劫の醜名を浴せかけたのですな。

それは、我々を取巻く状況を詳しく調査すれば分ることですぞ。

枢機卿

公爵

夫人が

彼(コラムボ)から通れられるものと思つて、あの巧妙な便りを書き送らぬうちに、

アルヴァレス伯と彼女との、この縁組が行われたことは明白だな。彼が、性急なその氣質からして、倅せが

嫌々ながら自分を訪れた、と認めたくはない、と思つていることを承知しているものだからね。

彼の期待感を昂めてやるのは、拙いことだったのだ、あれ程悪口中傷と侮辱の種をばら撒いて、彼を陥れるのが、たとえあなたを侮辱することにはならぬ、としてもね。

国王

予には、

あなた自身が、自分の悲嘆を引き起した大因^{もと}なのだ、と非難するのに充分過ぎる程の証拠が揃っているのだ。

しかし、他にも非難すべき者がいるな、若年のアルヴァレス伯以外にもね。

180

枢機卿

他にも、誰か手先を勤めた者が

いるのでございますか？

国王 左様、この私がそうなのだ、彼女自身、及び、ドン・コラムボと

共にね、尤も、恋人というものは、金を払いさえすれば、いとも簡単に買取出来よう、と考えた我々には、様々な目的があつただけだね。

して、人の心の中迄も支配権を行使した、という点で、臣下達銘々の伴侶の選択、乃至は、離別をば、

神の特権に委ねている、

国王としての役目を逸脱してしまつたのだ。従つて、あなたは、

185

175

170

正当な審判を行なって、報復して欲しい、とて、私の前に跪くのなら、

あんた、気の毒なアルヴァレス伯に関する、悲劇的事件においては、この私を、帮助者と考えてくれなくちゃいかんよ。

貴族一 あれは、貴方が、ドン・コラムボに目をかけていらつしやつたからではありませんかな、陛下。

ヘルナ（貴族二に）まあ、まあ、国王様は（枢機卿に）丸めこまれておられるのだよ。あんたも気が付かれたでしょう、

コラムボを無罪放免してやる為に、如何に国王様がご自分をこの策謀に連座させよう、とされたものかをね。天よ、これが、正義（の裁き）というものでございませうかな？

枢機卿 貴方の審判は、この点で、天与のものでしたぞ。

国王 けれども、

コラムボは、安全無事である訳にはいかないのだし、予としても、彼を赦したのでは、正義の裁きを下したことはないのだ、何しろ、彼は、法と臣従の義務とに、

敢てあれ程酷く、傲慢無礼にも違反しようとしたのだから、

貴族二（ヘルナンドーに）おや、王は、又ぞろ、豹変されるのですかな？

国王 して、もしも予が

手を拱いて、この流血の罪の審判を天に委ねるなら、流されたその血は絶叫し、声高に

訴えて、永劫の天上の宮居を揺すぶり動かすことだろう。しかし、此処には、流されたアルヴァレスの血の他にも、もっとコラムボを非難告発し、それを処罰せよ、

さもなければ、国王の資格などないぞ、と私に言いつけているもの

があるのだがな。

ヘルナ（貴族達に）風向きが変わってきましたぞ、皆さん。

国王 して、たとえ、私が、時ならぬ

彼の死は赦してやれるにしても、あれ程大胆不敵にも私に打ちかかってきた、あの無礼を赦してやる訳にはいかんぞ。あんたが、功績を、

それも、大した功績をたてた故、今迄私があんたを大目に見てきた所為で、

私がかれ程迄も寛大になっていたとすれば、あんたがいくら憤激したとしても、報復する為の、

時機も場所も見つからぬだろうな。私のこの目が、

残虐な処刑行為を目の当たりにして、公然と侮辱され、脅かされているに違いない、只今の場合を除いてはな。こう迄も

君主を蔑ろにするとなると、（臣下の過誤を）赦してやるという、国王たる私の権力も、遙かに凌駕されてしまい、

あんたは、私の憤怒をば、身に沁みて味わうことになろうぞ。

ヘルナ（傍目）それには、あんたも、短い祈りを、もう一つ余計に、唱える必要がありますな。

コラム この私は、今迄の私の人生において、形式的なこの審判に対して、自分を弁護してくれそうな行為は何もしたことがない、とでもいうのでしょうか？

枢機卿 慢するがよい。

コラム それでは、手前は、口を鎖さなければなりません。名誉面

目は、一体何処に行ってしまったのでしょうか？ それに、国王方の感謝の念もですね、一体誰が体を張って、自分達の偉大さを確保してくれていたものか、を、国王方がころつ

200

195

190

220

215

210

205

「枢機卿」

と忘れてしまわれるとしましたらね？ 手前の首を刎ねて下さい。それから、お調べ下さい、絹物を着込んだ、優雅で口の巧い、貴方の麾下の貴族達の中で、一体誰が、

この私がした如く、我と我が身をば、進んで危険に投じ、浮き島宛らに、血の池に浸^{つか}つて、押し渉^{わた}り、

雄々しくも貴方を防衛すべく、堡壘となれ、とその者が求められている場合には、貴方が生き延びられるよう、大胆不敵なその胸に、

死（神）をば受入れられるものかをね。しかし、兵士というものは、貴方のお部下の、勇猛な阿呆というべきで、国家の安寧が脅威に晒されている場合には、貴方も大切に扱っておやりになれま

すが、一旦、貴方の国家と、筋骨の傷とが癒えたなら、何時彼等の外科医師をば、又ぞろ、採用すべきか、をも考えず、貴方は、彼等を

振り捨て、（甲冑宛らに）埃だらけの兵器庫にぶら下げさせるか、さもなければ、報酬を要求する連中を死罪に処するのですからな。

国王

止めるがよい。

予は、あんたが博した戦勝と、あんたの功績とが、あんたのアルヴァレス殺害と

均衡がとれたもの、と考えていたのだ。それは、予が、慈悲心を働かせて、判断していた間は、あんたも安全無事だったの

だが、予への、あの公然たる侮辱は、国王たる予の気前のよさをば、あれ程大胆不敵にも非難した故、倍加されて、

あんたを屈服させるか、抹殺させてしまおうぞ。

貴族一

（ヘルナンドーに）素晴らしいお言葉

235

230

225

ですな。

ヘルナ（貴族達に）枢機卿は、ご不興の態ですぞ。

枢機卿（コラムボに）国王様には、へり

下った態度をとるがよい。

コラム して、助命を歎願するのですかな？ 敢

て命を捨てることも出来ぬような、

卑怯者達にそうさせるが宜しい。手前はむしろ首など生やしていたくはないものですな。

国王様の慈悲仁愛のお蔭で、首を刎ねられずにいる位だったらね。

国王 牢獄へと、彼を連れて行け。（護衛兵達、コラムボと共に、退場）

貴女、悲嘆にくれる俣の貴女を此処に遣して参りませ、して、貴女が

流される泪、乃至は、今は亡き、（貴女の）ご主人の名譽面目に対して、国王たるこの私が償えることは何なりと、

本当に償われるもの、とご期待頂いて宜しいですぞ。公爵夫

公正な為され方に他ならぬ、と思われませわ。（一同、退場）

245

240

四幕一場

貴族二名、及び、ヘルナンドー、登場。

貴族一 現代は驚くべき時代ですな。

貴族二

驚くべき、禍事まがごとの時代ですぞ。

ヘルナ (特定の) 地方を支配統治するのが、その役目となっており、

或る人々が、守護天使と呼んでいる、守護達の中で、

ナヴァール王の責任を負ってくれる人は、誰もいないのでしょうか？

天はもうすっかり我々を見捨ててしまったのですかな？

貴族一

釈放されてしまったのだ！

コラムボが

貴族二 それに、今迄にもまして、寵愛を受けているのですからな。

貴族一

は、罪を赦されたというよりも、コロツとそれが忘れ去られてしま

まったものだな。

その「寵愛」という言葉は、彼の評判を損なうものだったのだ。

ヘルナ しかし、実際に起ったあの殺害事件が、人々の記憶から消え

失せて、

一場の夢宛らになつてしまつて、己が祖国の守護者として、

彼はチャホヤされるようになってきたのですな。一体如何な魔法の

鎖で、あの枢機卿は、国王を絡め取っているのですかな？

貴族二 あんたは、何と仰いますか、あんた、もしも彼等が、今、

公爵夫人に魔法をかけて、惑わし、何か凶々しい術策を使って、

彼女とコラムボとの結婚を、尚も推進するようなことがあるとした

らね？

ヘルナ 「何と言うか？」ですと？ 私は言うでしょうな、如何な女

性でも救われはしまい、とね。それに、又、

自分達と同じ女性が、こんな不敬虔な言動を見せた後では、

誰でも天国に入りたい、などと憧れるのは、相応しくはないことだ

し、

しかも、国王様が、コラムボを復職させてこの方、

私の信頼は酷くぐらついてしまったので、今や、私は、

何物も信じられぬでしょうな。

貴族一

彼女が、彼の殺害されたのを

赦してやるなんて、ありえぬことですな、私は、彼女が涙を流すの

を

見ていましたからな。

ヘルナ

勿論私も見ていましたぞ、貴方、

して、もしも彼等が律義誠実ではないようなことがあったなら、女

性が

涙を流しているのをば、手を拱いて傍観しているのは、半ば地獄墮

ちさせられるということになりますな。

一体何時、枢機卿がお祈りを唱えた、と貴方はお考えですか？

貴族二 私には分かりませんな。

ヘルナ

天よ、手前の慈悲心の欠如を、何卒お

赦し下さい。

ですが、もしも私が彼を殺さねばならぬとしたなら、彼には、お祈

りをする

暇などないでしょうな。彼の命が犠牲になる筈はないのです、

彼の魂も、一緒に逝くのでなければね。

貴族一

それは、過酷過ぎることに

なるでしょうな。

「枢機卿」

へルナ 貴方が、彼を片付けてやろう、というお心算の時には、貴方は、彼に

懺悔する暇を与えられても宜しいでしょう。彼等（コラムボと枢機卿と）は、もつと酷いこと

私を傷つけたのですからな。

貴族二 あんたは、余りにも酷烈過ぎるよ、あんた。

コラムボ、大佐達、アルフォンソ、廷臣達、登場。彼等は、舞台上を通り過ぎる。

へルナ 派手な装いをしたあの連中が、彼の出獄祝いをすべく、

何とそわそわ、ばたばたと集つて（つと）いることでしょう！ あの中

己が出世昇進に関しては、勇者と雖も、

悪党を当てにせねばならぬとは、何と遺憾千万なことでしょうかな！

貴族一 アルヴァレス伯への、あの残虐行為を除いては、

コラムボは、自分に酷い汚点を付けてはいないのだ。

しかし、彼の伯父上ときたら――

へルナ

年齢が十二歳で、

彼（コラムボ）を相手に闘おうとも、その伯父の、枢機卿の權威を向うに廻して、己が魂を賭けようともせぬような息子が、もしも私

にあつたなら、

私は、その子を勘当することでしょうな。財産の所有権が保証されているのは、

三世代に互る人々の生涯の間だけのことで、一旦それが過ぎてし

まったなら、四代目は、

誠実な律義者が、思いの俣に歩き廻れるのを見ることが出来ましよう。

貴族二 それは、唯もう、

茫漠たる荒野に他なりませんな。

へルナ

私は、公爵夫人にお目にかかりに

行きますぞ。

貴族一 あんたが、公爵夫人をお慰めしようとするのも尤もなことだな。

な。

へルナ これから、我々は、国王様に伺候せねばならないのだ。どうか、そう

なさってください。

（へルナンドー、退場）

国王、及び、枢機卿、登場。

貴族一（貴族二に） あれば、勇猛な気魄の持主だな。

貴族二

その勇猛さがよ

り勘い方が、より安全無事なのだな。

国王と枢機卿とが、何やら協議していますぞ。

国王（枢機卿に） 公爵夫人に宜しくお伝えあれ。彼女の心を宥めて、

少しでも安らかにしてあげるのに相応しく、効力がある、と

貴方が考えられる、如何な言葉でもお使い下さるがいい。では、皆さん、失礼しますぞ。

枢機卿 陛下、手前が所有するありとあらゆる物を駆使して、神聖な

（王権を揮われる） 貴方のお役に立てますぞ。

（一同、別々に退場）

40

35

30

50

45

四幕一場

アントニオ、及び、セリンダ、登場。

アント 奥様、貴女は生きている女性ひとの中で、この上なく歓迎すべき女性ですな。

セリン 一体誰にとつてそうなの、秘書の貴方？

アント 私みたいな もしも貴女が、この

無遠慮さをば、お赦し下さる程の優しさをお備えでしたなら、私は、敢て

「私にとつてそうなのだ」と申しますぞ——何しろ、私は紳士なのですからな。

セリン それに、きりつとしてもいらつしやるわ。

アント ですが、うちの奥様は、うんと貴女を必要としておられましたぞ。

セリン それは、一体如何してなの、秘書の貴方？

アント 貴方は、一番綺麗な——

セリン そうかしら？

アント 一番頭がいい——

セリン へえー。 宮廷中で、一番陽気快活な女性でいらつしやいますな。

アント それで、この私に、公爵夫人を楽しくして差上げるように、と所望されたのね。

アント あの方には、あれ程深く悲しみに沈まれるようなことは、今迄一度も起つた例あましかなかったのです。

10

5

あの方のお部屋は、より嵩張つた板に他ならなくなり、あの方は、亡霊宛らに、その中を朦朧と歩き廻つておられるばかりで、

あの方のそんなお姿を見たなら、貴女は真つ青になれましょう。

セリン 奥 様に、私が此処で

お待ちしております、とお伝え下さいな。

アント 宜しうございませうとも。

(傍白) 元氣一杯の女性だな。この女性と一緒に、私の私室に入り

たいものだ。

この女性は、貴族達に交じつて、素晴らしい彼等の伴侶になれるな、間違ひなく、彼女は、(マドリガルの)ソプラノ(歌手として)の才能を備えているからな——奥様、失礼しますぞ。(退場)

セリン どうも、あの男は、私に狎れ狎れしく(失礼な真似を)しそうですね。

うだわ。

そのファッション(女性)が新しく、珍しい(純潔な)時には、彼にも、その衣裳(女性)を買い調える経済的余裕はないけれど、

元氣強壯な男達の例に倣つて、彼等は、そのファッション(女性)が、

難がある傷(疵)物になつたとすると、恐ろしい暴君宛らに、無慈悲にも、それを漁り求めるのだわ。

私は、未だ、あんな男達の言いなりにならねばならない程、年老いてはいないのだ、つい今朝方、

我が枢機卿の甥御殿から、わざわざ、挨拶の言葉を

かけて貰つた程だものね。おや、又、あの男がやつて来たわ。

アントニオ、登場。

25

20

15

アント

ら、巧く説得出来たな。

我なが

奥様、彼女に対して、貴女がお揮いになれる、如何な弁舌でも

お使い下さい。して、苟もこの私が、何か、奥様のお役に立てるよ

うな

ことがございましたなら、一寸お声をおかけ下されば、その通りに

致しますぞ。

30

公爵夫人、登場。

公爵夫

貴女、私は、貴女にこれだけお訊ねしよう、と来た訳なのよ。

もしも貴女が、私の状況、悲嘆にくれる私と同じ状況に陥っていた

としたなら、つまり、私は、この世のありとあらゆる幸せ、それに、天国での幸

せの大半からも

切離されてしまったことを言っているのだけれど、(何しろ、私の

苦悩は、救済される見込がない罪を見出しかけているのですから

ね)

貴女は、ドン・コラムボのことを如何な風にお考えなの？

35

セリン

すって、奥様？

何で

公爵夫

残酷なやり方で、この不幸災厄の全てを惹き起した、あの人のことをね？

しろ、

貴女は、この私みたいに、涙を流そうとはしないの？ そして、む

永劫に涸れることのない泪の源泉が、貴女の目を溺らせてしまった

方がいい、

その目で、又もや、あの人殺し、それも、鼻高々の(有名になった)

あの人殺しを見た所為で、呪われるよりも、と思いはしないの？

自分が犯した罪に丸つきり無頓着なので、彼は、次から次へと、

新たな貴人殺害に相応しくなっているよ、彼の魂が、すっかり

深紅色に染っており、罪もない人々が流した血で、腥くなっている

にしてもね。

だけど、いいえ、私に返事しないでいいわ、私は知っているのよ。

貴女がいつも高貴高邁な精神を備えておいでで——それが、私には

欠けているので、

彼が犯した悪行非行を見て、私の(軀の)機能は全て、

惧れ麻痺してしまっているのだけれど、——貴女は、彼を生かして

はおけない、とお思いになるでしょうね。

だけど、私は、哀れなこの私は、もつと苦悩しなければならないの

です、天には

じつと私を眺めていてくれるような、小さな星屑の一つもないので

すものね。

それが、何か怒りの力を降り下す

標的として、この私を選び出したのでなければね。

50

ブラセンチア、登場。

ブラセ

奥様、ドン・コラムボがお出でになって、是非共、

公爵夫

奥様とお話したい、との仰せですわ。

いいこと？ (ブラセンチア、退場)

55

だけど、それは駄目だわ、

私の許にやって来るのは、如何しても、コラムボだけしかいない、

ということになるのかな？ 立派な仕打と言えるものかしら、
 暴虐な行為を働きながら、勝ち誇っていることがね？ お話しなさ
 い、貴女、正直に、
 貴女の本心だけを口になさることですわ。

コラムボ、及び、アントニオ、登場。

アント

れはしませんぞ。

貴方、奥様にお目にかか

コラム お目にかかれぬ、だと！ たとえ、彼女が、鉄砲玉や砲火も
 届かぬ所に、

がんにがらめに縛られて、幽閉監禁されているにしても、又は、た
 とえ、彼女が、己が墓穴の中に、

それも、造化が今迄に生み出したものの中で、

一番堅牢な鉱坑（坑道）内に入っているにもせよ、

私は、力づくでも、如何にかして、彼女に会いに行くことだろう
 て。（アントニオ、退場。）

この私が、

貴女を口説こうとてやって来たのだ、とご心配には及びませんぞ、

奥さん、貴女には、私が

心の中でより優しく想ってあげる欠片程の値打ちもないのですから

な。私はやって来たのです、

貴女が憤慨させた所為で喪ってしまった、私という男（の真の姿）

をお見せし、

私の復讐の中で、如何程のものが遺っているものか、を教えてください
 る為だね。

生きておられるがよい、しかし、もう二度と、結婚しよう、とは思

われぬことですな、

私が、次のその男を祭壇の前で殺し、朗らに点っている蠟燭という
 蠟燭を悉く、その者が流す血で消してやりますからな。もしも貴女
 が、

敢て司祭を呼び寄せて、それ程迄にも天を怒らせてから、

別の男を（夫として）受入れるようなことになったなら、貴女の寝

台で、温かく貴女に抱擁されている

その男をば、私は剣を揮って切り離し、その心の臓を大鴉共に投げ
 与えてやりますからな。

セリン それは、今迄例しもなかつた程残酷なことだ、と思われま
 しょう。

コラム（セリンダに）失礼しましたな、奥様、憤りに駆られていた
 のと、私の報復が

充分ではなかつたこととて、私は、目が見えなくなっていたので

す。貴女は、

立派なご婦人ですが、あの女は、貴女に一目見て貰うだけの値打も
 ないような、

えらくお粗末な出来の、いとも詰らぬ女なので、

彼女と、秋の枯葉という、軽いもの二つのうち、何れが先に風に吹
 き飛ばされてしまうか、といった

賭をするには、その枯葉の方が、遙かに貴重（重味があり）過ぎる
 のですな。

どうか、この私をば、何か親しみ深い名で、「貴女の従僕」という

風に、呼んで下さいませよう。私が

公爵夫人の心に受入れられるのを蔑んでいる、と貴女に保証させて
 頂くべく、

彼女を証人にして、貴女を「女主人」と呼ばせて頂きますぞ。

65

60

80

75

70

この真珠玉をば、貴女の首飾りにして下さる、という名譽をば、私にお与え下さいませう。

セリン 貴方、この私のお考え下さるのに、貴方は余りにもへり下り過ぎておいでになりますわ。

コラム 如何な腹立ち（の因）でも、余りにも酷過ぎるからとて、彼女を罰せられぬ、というようなものはないのだ。（退場）

アントニオ、登場。

アント ところで、奥様。

セリン お退りなさい、図々しい男ね。奥様、

あの偉大な方のことを、ちゃんとした訳があつて、貴女が考えておられるよりも、

もつと立派な方なのだ、と、たとえこの私が考えているとしまして、もお許し頂ける筈ですわね。

公爵夫 おや、女性という女性は

誰しも、冒瀆的なものを忌み嫌いたがつているのではありませんの？

セリン 私としましては――

公爵夫 アントニオ、この人は女性なの？

アント その人が男なのか、又は、女なのか、手前は存じませんな。手早く、その人を試してみなければならぬのです、

コラムボ様がお出でになつた時には、それ程気取らぬ振舞いをなさつていましたからな。

公爵夫 （セリンダに）貴女に座を外して頂きたいものですわ。（傍白）

彼女のことは、一杯喰わされたわ――

（彼女に）私は、貴女のことを、淑かで、立派な女性なのだ、と思つ

95

ていましたわ。

セリン 奥様、私は、誰でも、（他人を）咎めだてする人を蔑みますわ。それに、

公爵夫人という、偉い肩書を差引けば、

私には、貴女の貴い名譽面目は、これっぽちも必要はありませんまい、

私本来の完全な重さになるのにな。もしも奥様が嫉まれるのですから、

私は、此処から退いても宜しいですわ。（退場）

アント

たぞ。

彼女は行つてしまいま

公爵夫 どうか、あの人が

戻つて来ないようにして頂戴。――（アントニオ、退場）

値打ちもないわ、私の怒りは、もつと高い所迄上昇しているのだからね。

彼は、私が再婚することに、警告を挟む必要はないのだ。アルヴァレスよ、私は貴方の許へと参らなければならぬのです、

貴女を愛した乙女・妻・寡婦としてね。だけど、私の敬神信心と、愛情とに相応しいような、悲壮な務めを

貴方の枢に対して果してしまふ迄は、駄目なのですわ。だけど、如何な風にしたら、それが出来るのでしょうか？

一体誰がそのやり方を教えてくれるのでしょうか？

プラセンティア、登場。

プラセ

奥様、ドン・

110

90

105

85

100

ヘルナンドーが、貴女と是非お話ししたい、と申しておいでですわ。
公爵夫 あんたが、自分で判断してみても、今の私が、他人の訪問を

受けるのに相応しくはない、と思わなかったの？

ブラセ

申し訳ありません

が、奥様、あの方が仰有るには、

今は亡きご主人のアルヴァレス様への、貴女の愛情に関わりがあり、是非共貴女のお耳に入れたい、

何かのお知らせを持参した、とのことですわ。

公爵夫

それじゃ、お通しし

なさい。

115

ヘルナンドー、ブラセンティアと共に、登場。

ヘルナ 奥様、手前は、貴女にお話ししたいのですがな。

公爵夫

(貴女は) 座を外しな

さい。(アラセンティア、退場)

ヘルナ その為に、手前が此処へ参上しました用件をば、ご存じになりましたなら、

これ程の凶々しさを、奥様が如何にご判断になるものか、手前には分りませんがな。

公爵夫 拙宅の召使いが、それをお聞きする心準備を、私にさしてくれませんでしたわ、

もしもそれが、今は亡き私の主人に関わりのあることでしたらね。

ヘルナ

貴

女は、

それ程迄にも、アルヴァレス様が亡くなられたのを口になさること
がお出来になるのですか、

120

ご自分の復讐のことは、一言も仰有らずにね？ おお、奥様、

貴方があの方のお葬いの費用を払われ、目を赧く哭き腫らし、
流れる泪でハンカチをしとどに濡らされた時、恰も他のことは何も

彼が亡くなった所為ではない、と考えてでもおられるかのように、
ぶらぶらと歩き廻り、何時間もの間、ぼつんと一人ぼっちで過せる

ような

貴女を叱りつけ、貴女的美徳貞淑を、高く買い被り過ぎていたこと
をば、

悔い改めるべく、手前はやつて来たのです。

手前は、あの方が血を流すのを見ていたのだ、と貴女にお伝えすべ
く、参上したのですぞ。

彼の名声と、名譽面目とに関して、何も我がものだ、と

要求する資格がないこの私は、殺害された彼の軀が、
未だ温かく、死にゆく苦しみで喘ぎ、動悸を打っているのを見たの
です。

130

して、遂には、驚き、呆気にとられた我が心は、怯み、コソコソと

匿れてしまいました、

一方、粗野残忍なコラムボは、ニヤリと嗤いながら、突つ立ち、
血を流している彼の傷口を嘲弄したのです。貴女が生きておられ、

(生き生きした心を抱かれた俛、) こんな惨い光景が

現出された遙か後迄も、それに報復もせずにおられるとしたなら、
余りにも酷いことすな。

135

公爵夫 それ程、そそつかしくもこの私を咎めだてなさる貴方は、
慌しい私の心の動きをご存じないのですわね。それでも、私は、貴
方に感謝しますわ。

方

そして、もしも貴方がアルヴァレス様の友人味方でしたなら、敢て
貴方を信頼して、打明けますわ。私は、自分の生を軽んじてはい

140

のだけれど、

自分こそ、彼の報復者なのだ、との表明に役立てる為、

それを如何利用すればいいものか、分らないのです。これは、(敵が)私を随れてやろう、という狡智を働かせた結果、派遣されて来たの

かも知れぬ貴方に、

私がこれ程大胆な告白をした、ということ以上の

証拠は必要ありません。私は、彷徨っている

あの方の亡霊に、犠牲、つまり、コラムボの命を捧げたい、と

心から願っておりますので、彼の命が奪われてから、

ほんの二分後迄も自分自身が生き永らえたい、とは露望ろぼうんでおりま

せんのよ。

へルナ もしも貴女が、この私を卑怯者と呼ばれるお心算なら、それ

は、私を

叛逆者と思われるのに均しいことですが、それ程雄々しい

決意を固めておられる故、赦して差上げますぞ、その決意をば、時

と、

宿命という宿命とが挙って、援助してくれるに違いありませんな。

それ故、貴女の御手に

手前が口づけ致しますのを、何卒お許し頂きたく、又、願わくは、

名譽面目を指す、

怒れる気魄が、それをお導き下さいますよう。

公爵夫

へルナ ドン・コラムボの心の臓へですぞ。

公爵夫 この私が、たった独りで、惧れ戦っている、余りにも無力

過ぎますわ。

へルナ 「独りで」ですと？ 貴女は、本気でそう仰っているの

すかな？ それでは、

貴女が考えておいでの正義公正を辱めることにはなりませんかな、
奥様、

もしも他人(の手)が介入してくるとなりましたらね？ 貴女と手

を結ばせて頂くのが、

思い上った所業ではないとしましたなら、

私は、敢て、いや、是が非でも、亡くなったあの方の

報復を遂げるのに——如何な立派な人物が喪われるにもせよ、

全世界が関っていること故——その助力を申出たい、いや、申出な

ければならないのです。

思い切つてこの私にお言いつけ下さいませんか、奥様？

公爵夫

心算はありませんけれど、

こんな不利な状況にも拘らず、敢てアルヴァレス様と、

この私との、友人味方である、という様子を見せている

男性の律義誠実さをば、並々ならず私は尊敬しなければいけません

わね。あの枢機卿は——

へルナ 食事の第二コースに取りかかろうとしているのです。コラム

ボの方を、

先ず切り刻んでやらねばなりません。すれば、彼の亡霊が、(死の)

舞踏まわらわしでリードするに違いありませんな。

彼を先に死なせてやりましょう。

公爵夫 だけど、一体如何な工合に？

へルナ 「如何な工合に」ですと？ 剣を揮つてですよ。して、たと

え私がそれに手を着けるにしても、

それ程、自分自身の名譽面目を潰すことはないでしょう、

狡いやり方で、彼を殺すなんて心算はありませんからな。

公爵夫

一体如何

155

150

145

170

165

160

すれば、私は、

限りないそのご尽力に報いられるものでしょうか？（女性の）貞淑さに反することですわね。

今、私の夫が、その墓石の下で呻き苦しむ、

私を、大理石造りの、その寝床へと呼び寄せている間、偉大な

その行為が、当然にも相応しいもの、つまり、この私自身をば、

もしも貴方が、あの勝者よりも生き永られたなら、献呈するとの約

束をする、ということはね、だけど、もしもそうすれば、

アルヴァレスの遺骸が宥められるものなら、それは、

立派な想い出に相応しくなるに違いありませんわ。

して、コラムボが権力の全てを握り、

宿命をも意の俣に出来るようになったこととて、アルヴァレス様の

後継ぎとなる筈の、

その者を殺してやる、とたとえ彼が誓ったとしても――

ヘルナ 暴虐な！

公爵夫 だけと、もしも

人が恋しい、という気持を、今後私が抱くようなことがあったなら、

ヘルナンドー様には、真っ先にその愛を要求する権利がおりにな

るのですわ、

私の祈り（願い）と財産（運勢）とが、貴方のお伴をするようにな

る迄はね。

ヘルナ それは、余りにも莫大な返礼ですな。

公爵夫

公正なことですわ。

それは、何もかも正当

ヘルナ たとえ私が、コラムボよりも生き延びられたとしましても、

私は、

本国での安全無事を期待する訳にはいきませんな。

175

公爵夫

貴方は、私の

富の全てと、私の愛情とが、貴方のお伴をして、お護りしないよう

な 所へと遁げて行くことは出来ませんわね。

ヘルナ

もしもこの私が死ぬとし

たなら――

公爵夫 貴方を記念して、

社（廟）が建立されましよう、私が愛していたアルヴァレス様に次

いで、

私が心の中で想っていた方ですものね。

ヘルナ

もう一度お手をお貸し下さ

い。

貴女の言い分は、それ自体とても神聖なものなので、貴女が祈りを

捧げて、

それを更に強化する必要はない故、それを私にお任せ下さい。

プラセンチア、及び、枢機卿、登場。

ブラセ 奥様、枢機卿がお見えですわ。（退場）

公爵夫 （ヘルナンドーに）貴方は、顔をお出しになるの？

ヘルナ それに、彼は、悪魔宛らの、いとも恐ろしげな

ご面相をしていましたが、私は、彼を避けようとは思いませんな。

（彼は、退場する際、枢機卿を睨みつける）

枢機卿（傍白）ヘルナンドーは、此処で、一体何をしていたのかな？

二人が、

協議しているなんて、気に入らん。だが、それを気にはすまい。

（公爵夫人に）国王様は、

185

180

190

195

200

丁寧に、奥様にご挨拶しておられますぞ。そのご命令によって、手前は、貴女にお伝えしなければなりませんのです。つまり、彼の意志と行動とは、

抑制に従い、屈服して、一般大衆の審問にも応えるようなことはありませんが、それでも、彼は、自分の側近の家来達にたてられた

正当公正な人、という評判名声を維持したい、と思っているのですな。して、

貴女は、生得の肉眼で、ご自分の姿を眺めておられて、それには、遠く迄も見通すのに、望遠鏡も必要はなく、物の姿をより大きくするのに、如何な拡大鏡の力も必要はありませんが、貴女は、ご自分の限られた判断力に照らして、損害らしく見えるものを、過大視しておられるのですぞ。

何故なら、我々は、自分自身が蒙った不法不当をば、常に最大のものと考えがちですからな。しかし、

もつと合理的客観的な見方、思慮深い、慎重な考え方もあるので、もしも貴女が、そんな見方で、国王様を眺められれば、貴女にもお分りになりますよ、

国王様がコラムボを赦されたのは、陛下が唱えておられる正義公正にも、それ程違反している訳ではない、誤った貴女の信念が、

貴女に怒りを覚えさせる程には、とね。

公爵夫

成程、猊下、

貴方のお言葉は、(私から)遙かかけ離れた展望の下に示されているので、私には、

貴方がそれを見せて下さる距離からでは、お言葉の主要な意味

205

210

215

220

を、完全に理解することは出来ないのです。だけど、私の目は、私を許して頂ける理由を見つけて下さるよう、猊下に、本当に懇願するかも知れませんかね、何しろ、溢れ出る泪の所為で、この目は、盲目同然になってしまいましたからね。

枢機卿

麗しの人よ、平穩

平和が、その目をば、元に戻して下さいませよう！

その影像を、貴女の目により近づけて差上げれば(もつと明確に申上げれば)、国王様は仰有つていられるのです、

自分は、ドン・コラムボの、他の功績をば、不当に過小評価することなしには、

彼を苛酷に取扱うことは出来なかつた、とね。

その功績は、自分達への(自分達が当然受けるべき)報酬と、名譽面目とを、より声高に要求しているのですな、

貴女がご自分(から)の復讐を求めておられるよりもね。我が王国は、それ等(コラムボの功績)のお蔭で、

倅せになつたのだが、貴女は、唯それ(挫折した復讐)の所為だけで、

不運不幸になられたのですな。又、(私は国王様のお言葉通りに申上げていられるのですぞ、)

唯一人の人間の命を奪つた廉で、彼(コラムボ)が死ぬことは、合理的ではない、何しろ、そのコラムボの剛勇がなければ、

今や、(征服されるという)不名譽(屈辱)を受けずしては、何人も生きてはいられなかつたのですからな。

公爵夫

この私が、拙くも理解しているところでは、名譽面目から逸れることなく、

それ自身が歩むべき道を進み続けるのが、美徳の極致ということになりますわね。或る人物が、

225

230

235

戦争で、雄々しい手柄をたてたからとて、もしも貴方が彼の殺人の罪を

見逃してしまうとしたなら、貴方は、彼の剛勇を貶しめて、

犯罪に、いいえ、もしもそれが、(アルヴァレス様がされたような)

力づくでの捕獲を間違ひなく引起すとしたなら、

女衛にしてしまうことになり、立派な人々でも

より自由気儘に罪を犯せば、酷い目に遭うだけ、ということになり

ましよう。だけど、論議するのは、

今やもう遅過ぎますわ、殿下、それはもう終ってしまつたことです

し、貴方は、

悲嘆にくれる私を氣遣つて下さる、立派な国王様の許から、正当公

正な

措置として、私に賠償するのは不条理なことだ、と私に説得すべく、

派遣されていらしたのですわね。

枢機卿

貴女は、誤解しておられますぞ、

何しろ、もしもコラムボが死ねば、アルヴァレスが

生き返られるものならば、国王様は、彼を法に委ねられていたこと

でしょう、

貴女に捧げられた、血を流している犠牲としてね。ですが、彼の命

が、

「処罰を！」と声高に叫びたてる法令に従うべく、投げ捨てられた、

もう一つの宝物に過ぎなくなつたなら、彼自身と、一般大衆との

安寧にとって、賢明な措置と言うべきでしよ、

これ程必殺の法の刃を取除き、やがてその中には、

貴女に惻隱の情を覚えさせるように、コラムボを生かしておき、

高潔な行動をとらせ、又、悲嘆を示させもして、己が罪を償わせる

ことはね。

240

公爵夫 それは、コラムボ殿がその限りを尽したのより、更に酷い

暴虐なのです。彼は、私の主人を殺害したのだけれど、

それが、処罰に値する、とこの私に考えさせてくれるだけの

慈悲仁愛も、貴方は備えてはいらつしやらないのですわね。

枢機卿

それに、

私自身の名において、お答え致しましょう。手前は、我が甥が

残忍なあの罪を犯した、と主張し、有罪を宣告致しますぞ。

それは、凄じく残酷で、凶悪な行為で、

思ひ出すだに、私を震え戦かせるようなものであり、

報復の道場である戦場で、彼が培つた

暴虐な人間性をば、思わず露呈してしまうような行動だったのです

な。

して、国王様が惻隱の情を催され、彼を此処に生かしておいて下

さつてはいますもの、

哭いて悔悟の涙を流すという形で、己が心を、彼が、外に投げ出し

て見せるのでなかつたなら、

これから先――

公爵夫 そのお言葉は、丸で、貴方がもう

慈悲深いお方におなりになつてしまつたかのように聞えますわね。

枢機卿

奥

様は、

この私が、殺人罪でも是認(正当化)してしまつような、道義感の

持主だ、とお思ひになりますか？

あの犯行が行われた時、彼が、私の縁戚だつたこと故、

血縁という自然の人情に従つて、私は、

彼が奪われるべき命をば、喪わずに済むように、と嘆願する羽目に

なつた訳であります、

275

270

265

260

それ程自分に近い血縁の者に、それ以下のことが、この私に出来た
でしょうか？

お考えになってみて下さい、奥様、して、慈悲深くおなりになって
下さい。

この途方もない不法不当故に、私が本来備えている人格品性と、
尊い特性とを、私に喪わせないで頂きたいものですな。

私の無罪潔白をば、存分に貴女にお知り頂くべく、

ここに、私は、我が魂と、天とに、証人になって貰いますぞ。

我が甥が、人をそらさぬ友人味方という風を装って、

手厚く客をもてなそうとする、貴女の掟を破るべく、そして、それ

が屢々

人の口の上ると、これ程私に泪を催させる、あのことをしてやろ
う、と

やって来た時、もしも私が、我が甥の企て、乃至は、彼の人柄を
少しでも考え、又は、承知していたとしたならば、つむじ風が

私を引つ攫つて、果てしない劫火の許へと連れて行くがいい。

公爵夫

私は、

今のお言葉を信じない訳にはいきませんし、

猥下のお赦しをも頂きたいものですわ。正直申して、

アルヴァレス様が亡くなってこの方、私は、貴方をお慕いしてはお

りませんでした、

私達は、和解することは出来たのですけれどね。

枢機卿

私は、貴方の不信

疑惑も、又、

私は、あの頃、嫌疑を受けていたこと故、奥様、

貴女が、私に対する報復を遂行しようとして、見せられた熱心さを

も、

別に咎めだては致しませんし、又、今は、未だ、コラムボに対して、

慈悲情けを抱いて下さるよう、懇願することも出来ませぬ。私

が、是非共

申上げなければならぬことは、精々、私についての、奥様の元々の

考え方と、

私へのご信用とを維持しなければ、ということ位のものでして、

それをば、貴女への、私の惧れ、乃至、心の奥底に秘めた動機から、

私が主張している訳ではないのだ、とお考え下さって宜しいですぞ

——何しろ、手前は国王様に感謝していますぞ、

国王様のお引立てという、磐石の土台の上に、微動だにもせず、

突つ立っていますからな——

(そうではなく、) 貴女ご自身の為なのであり、又、貴女の受難苦悩

に

手前がご同情申上げている旨、お見せする為でもありますぞ。

公爵夫

貴方

は、(私が抱く) 疑いを

取り除いて下さいましたし、公明正大なその諫言忠告によつて、

悲嘆にくれる私に、たつぷり考える余裕を与えても下さったので、

私達は、再会出来て、未だ友人味方になれるかも知れませぬわね。

だけど、お腹立ちにはならないで下さい、もしも、一体誰の手で、

アルヴァレス様が亡き者にされたものか、私が今尚憶えていて、泪

を流し、祈りを捧げて、

(神の) 別の正義を自覚めさせるとしましてもね。

枢機卿

もつと楽しい平和

平安を

促進出来るような、ありとあらゆる想いが、貴女の心中に宿ります

よう！(退場)

290

285

280

295

300

305

公爵夫 何と、あの詐欺師の政治家は、阿諛追従を並べたてて、

貞潔誠実なこの私を買収し、自分を無罪潔白と思わせようとしていることだろうか！

いいえ、もしも彼の甥が死ぬようなことがあったなら、あの枢機卿も、

長くは生きていられまい、不法不当を働かれた（私という）一人の寡婦の祈りが、拳って、

ヘルナンドー様の剣を堅固にし、今度の復讐で、私も、自分自身の手を揮って、それ相応の栄光を博することが出来るでしょうからね。

私は、悲嘆のあまり、この頭脳が乱れ狂ってしまった、⁽⁵¹⁾ というふりをしてやろう。

それは、た易く人に信じ込まれるかも知れないし、偉大なコラムボ閣下の

死についての、探査審理を避けられるばかりか、その為、私が行う如何な⁽⁵²⁾ ことでも、

私の理性の機能が麻痺してしまっている、と人々に思い込まれていくこと故、

犯罪などではなく、私の護身の術⁽⁵³⁾ なのだ、と見られよう。⁽⁵⁴⁾ 見下ろすがいい、

我が主人の魂よ、貴方が赴いた永劫の冥界⁽⁵⁵⁾ から、この下界をね。そして、祝福された、貴方のお仲間の皆様相手に、ご自慢になって

下さい、
貴方の妻（恋人）の公爵夫人が、亡霊になってしまった貴方の復讐をしてやろう、と大童になっているのだ、と言つてね。（退場）

320

315

310

四幕三場

コラムボ、ヘルナンドー、アルフォンソ、及び、大佐、登場。

コラム ヘルナンドー、今や、私は、あなたに好意を抱くようになって、
たし、私が

怒りに任せて、侮辱的言辞をあなたに浴びせかけたことをば、半ば悔んでいるのだ。

ヘルナ 貴方は、悔悛の言葉を口になさるのに、余りにも気前が良過ぎてはなりませんぞ。⁽⁵⁶⁾

コラム それは、あなたの高貴な生れを立証しておるな。

あなたは、私の立腹、及び、私の剣に相応しくなるかも知れんな、もしもあなたが、諍いを挑発するのと同じ位、大胆不敵に、

己が言葉を実行に移している、としたらばね。私は、あなたの気魄が、

（飢えて）瘦せこけているか、眠り込んでいるのだ、と思つていたからな。

ヘルナ 貴方にも、

ご自分の気分を自覚めさせておくのは、えらく忙⁽⁵⁷⁾ しないことだ、とお分りになりましょう、

それを激昂させる為、何しろ、私は、それが、未だ、私の憤りに応える程には昂まつていない、と思つていますから――

おや、貴方はニヤリと嗤われましたな？

コラム この嗤い声が、それに相応

しいのだよ。諸君、
お気の毒ながら、この偉い武人は、諸君にえらく難儀をかけたもの

10

5

だな、

彼の仕事といえは、唯もう、只管喋りまくるだけなのだからな。

ヘルナ 閣下には、もう少し辛抱して、聞いて頂きますぞ。

貴方には、別の気晴らしを味わわせて差上げましょう、それに、これ以上はもう沢山、と貴方が思われる程、

素早く貴方の心の臓の回りを動き廻ることになる剣もね。

我々二人の命のみならず、それ以外の命迄もが、危殆に瀕しているとは、

残念なことですな。

大佐 躊躇うことなく、そうなさつて下さいよ。

ヘルナ それでは、生き残ったその者に、(もしも宿命が、その差違を許しているとすれば、ですが) その者が世間に伝えてもいい、と

私は申しますぞ、

私は、一寸した怒りに駆られて、此処へやって来た訳ではなく、

あの傲慢不遜な人物に、我が名誉面目を汚され、

踏み躪られたのに復讐すべく、やって来たのです。將軍であつた時分、彼は、

戦場から退くように、と私に命令したのですからな。

コラム それは、確と

憶えているぞ。

して、今から、あんたの魂を、軀から解放してあげるからな。

ヘルナ 私は、

それを

受けて立つべく、やって来たのです。もしも貴方が、勇を振るつて、幸運にも私を殺すことが出来るならばね。

ですが、私が、危害を加えるのにもまして、

貴方が、責任をとら(勘定をつけ)なければならぬことがあります

ぞ、貴方、もしも私の剣が巧くゆくならばね。

その切っ先も、両刃も、共に、若いアルヴァレス伯が流した血の所為で、より鋭くなっています、その血に、私は、

高潔な関心を寄せていたのです。(貴方が犯された)あの罪が、貴方が動脈を麻痺させ、(その中を流れている)罪ある血をば、

貴方の血管の中で、ブルブル震えているゼリーに変えてはくれぬものでしょうかな? 貴方は、

私が、あの殺人一件を指摘するのをお聞きにはなれても、貴方の霊魂は、

空中へ撃ち出されはしないのですかな、恰も、貴方が、天空から、

何かの弩弓で射殺されたかのようにね?

コラム あんたは、公爵夫人の戦士なんだ

な。

あんたは、これでもう充分な争いの種を私に提供してくれたな。万人が

闘わねばならぬ、と定められているのは、私には悲嘆に堪えぬこと

だな。それに、私は、

介添え人の彼が斃れたなら、名誉面目を大いに失墜することだろうて。

ヘルナ あの公爵夫人は、

貴方の声で、その名を口にするだけでも、冒瀆(罰当り)ということになるのですが、

貴方が、手ずから作り上げた薄倅の人であり、又、貴方によって、永劫の孤独を運命づけられているのですが、私は、申し開き(弁明)すべく、

やって来たのであり、私が、貴方を殺そうとしているにもせよ、

25

20

15

30

35

40

彼女が捧げる祈りのお蔭で、正義の裁きの為に、天界へと送られ、それと同時に、その祈り故に、私は、天上で赦されるのですな。

コラム 私は、空威張りの(悪党^{②⑧})言葉を聞くに耐えられんな。

ヘルナ 私か

らもう二言^{ふたご}申上げたので、後は

成行きに任せ(出たところ勝負でやってみ)られるが宜しい。皆さん全員の前で、私は、

自分が、彼女の為に、一体何を企てているのか、を心得ることも、考えることもない俣で、「あの高潔な女性」と宣言しなければならぬのです。

お気の毒に、彼女は今勤行をしておられ、

天国のことにかまけていて、何遍も硬くなつてしまった膝をついて、

大地をうんざりさせ、その目からしとどに流れ落ちる、宝石宛らの

泪を見せて、

その守護天使を買取しているのですな、一体如何程

自分がその主人(アルヴァレス)に会いたがっているものか、彼に

伝える為にね。私の企ては、

彼女からの委託を、必要としてはいいのです。もしもこの私が、このナヴァール国で、他所者だったとしても、どの紳士もが持つて

いる、

アルヴァレス伯殺害の報復をする、という生得権は、

美德廉潔の共通の仇敵(たる悪魔)を相手にして、

剣を揮い、命を投げ出してかかることのまつとうな理由になります

からな。

コラム あんたの話は、もう終わったかな? その雑音(を聞いた人の

耳)を癒し、

あんたの舌迄跳び上つて行って、あんたの言葉を、洗い漂い抹殺してしまえるような

道具が一つ、私にはありますぞ。

ヘルナ 私の胃袋(喉元)を塞いでいる、

粘液(痰)の小さな塊を吐き出してしまえば、私の話は終りですぞ。

貴方には、枢機卿と呼ばれる伯父上がおられますな。

ああ、あの方が、今、貴方の心の臓の辺りに潜み隠れているとい

のに、

同一の傷が、貴方がたを二人共掴み取り、ふらふらした貴方がたの

魂を、一緒に、

(地獄へと)送り込んであげられるようにね。さあ、打つてかかるぞ。

アルフ (大佐へ)我々も、手を拱いて、見てはいけませんな。(二

人、闘うが、コラムボの介添人のアルフォンソ、斃される)

ヘルナ 貴方は、今や、お祈りについて、如何お考えですかな? もう

コラム 機は熟したな。(コラムボ、ヘルナンドーの介添人の大佐を斃す) 70

我が友人にどうか宜しくな。勝負は五分五分だな(双方共、一人宛

死んでしまったからな。)

私は、慈悲深く振舞つて、これから、あの世について、

じっくりと考える時間をば、あなたに与えてあげよう。

あんたは、自分の魂が行き暮れて、五里霧中になつていて、と直きに分ることだろうて。

ヘルナ 私は、暗闇の中でも、歩いて行く道が見つけられるでしょ

うな。(二人、肉迫して闘う。コラムボ、双方の剣を手に入れ、

ヘルナンドー、介添人の武器を取上げる)

コラム 躓く^{②⑨}というのは、危険な兆しだな。

さあ、どうだ、命乞いをするかな?

60

75

50

55

45

「枢機卿」

ヘルナ

お恵みとして、我が命をば、

始めて授けてくれた人以外の誰からも、それを頂戴し、便々と保つて
ていることなど、私には、馬鹿らしく出て出来ませんからな。

コラム

私には、さもない、アドヴァンティッシ有利な条件など、阿呆らしくて、問題に

ならぬわ——（コラムボ、二振りの剣のうち、一方を投げ捨てる。⁽⁶²⁾
二人、闘うが、ヘルナンドー、コラムボを傷つける）

おや！

ヘルナ

今や、私は、

あんたへの負債から脱け出せたぞ。

コラム

あなたは、それをやってのけた

な、それでは、あんたを赦してあげよう。

あんたの手を貸して、握手してくれ。一体何時、我々は、再会出来るようになるかな？

ヘルナ

如何しても駄目でしょうな。

コラム 私には、己が生気が、どんどん引き退いてゆくのが感じられるな。しかし、私は、上を向いて、この顔を天に晒しているぞ。（死ぬ）

ヘルナ

この一件は、鼻がついたな。

だが、私は、この男の埋葬の為、待っている訳にはいかんぞ。

（退場）